平成３１年度　学校経営計画に対する自己評価最終報告書　　石川県立門前高等学校

重点目標　１　主体的で対話的な深い学びの実現をめざして、ICTを活用した授業改善を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
○基礎学力及び家庭学習の定着	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課 各学年	・生徒の授業態度は概ね良好だが、自ら学び理解を深める意識の醸成が必要である。	【成果指標】（生徒） 「私は事前に予習や宿題等の授業の準備をして臨んでいる」と評価した生徒が増えている。	「私は事前に予習や宿題等の準備をして授業に臨んでいる」と評価した生徒の割合が Ａ　７０％以上　　７３％ Ｂ　６０％以上 Ｃ　６０％未満	①　必ず準備をして臨んでいる。　16% ②　だいたい準備して臨んでいる。　57% ③　あまりやらずに授業を受けている。　16% ④　全くやらずに授業を受けている。　11%	A	【分析】予習も必要であるが復習の学習習慣も身につくよう指導していきたい。 【今後の対応】具体的な課題を提示して取り組むようにする。	生徒対象調査 （7，12月）
○生徒の思考力・判断力・表現力の向上	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課	・生徒の授業理解度は高いが、今後自分の意見を発信し相手と対話しながら物事を進める力を身につける必要がある。	【成果指標】（生徒） 「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒が増えている。	「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒の割合が Ａ　７０％以上　　８４％ Ｂ　６０％以上 Ｃ　６０％未満	①　身についた。　19% ②　だいたい身についた。　65% ③　余り身についていない　13% ④　全く身についていない。　3%	A	【分析】発表型の授業が増えてきており生徒も身についたという実感が高まってきている。 【今後の対応】表現できる課題を授業で増やし習熟させていく。	生徒対象調査 （7，12月）
	・門高読書タイムや図書館講座の実施	図書課 教務課 進路指導課	・読書活動を通して生徒の思考力･表現力･判断力の下支えする力を養成する必要がある。	【成果指標】（生徒） 「年間３冊以上の本を読んだ。（読書タイムに読んだ本も含む）と評価した生徒が増えている。	「年間３冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合が Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　５０％未満　　４８％	①　３冊以上読んだ　48% ②　２冊読んだ　27% ③　１冊読んだ　20% ④　１冊も読まなかった　5%	C	【分析】2冊以上の割合は7割を超えるが、3冊以上は半数に満たない。 【今後の対応】読書タイム期間に限らず、教科指導等の場でも積極的に学校図書館を活用したり、各クラスに本を設置するなど、本を身近に感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査 （7，12月）
○教員の授業力及び資質・能力の向上	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課 進路指導課	・新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために、教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要である。	【成果指標】（教員） 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員が増えている。	「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」と評価した教員の割合が Ａ　８０％以上　　８１％ Ｂ　７０％以上 Ｃ　７０％未満	①　実施している　47% ②　概ね実施している　34% ③　余り実施していない　19% ④　全く実施していない　0%	A	【分析】概ねにとどまっている割合が多い。 【今後の対応】互見授業や小中学校の公開授業を通じて自己研鑽を啓発していく。	教員対象調査 （7，12月）
	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進			【成果指標】（生徒） ＩＣＴ機器により授業の理解度が高まった。	「ICT機器を効果的に使っている」と評価した割合が Ａ　７０％以上　　８０％ Ｂ　６０％以上 Ｃ　６０％未満	①　実施している　59% ②　概ね実施している　21% ③　余り実施していない　20% ④　全く実施していない　0%	A	【分析】稼働率は非常に高くなってきている。 【今後の対応】ICT機器の整備をしていく必要がある。	生徒対象調査 （7，12月）
学校関係者評価委員会の評価	・授業評価においては全体に高評価となってきているが、今後どのようなことを行っていく必要があるか。								
評価結果を踏まえた今後の改善策	（教務課） ・教員の学習指導スキルの向上と生徒の個々の能力に応じた課題の設定など創意工夫を継続的に行っていく必要がある。								

重点目標　２　キャリア教育の充実と学力の向上によって、多様な進路実現を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準			判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
○進路意識の醸成と早期確立	・外部講師によるキャリア教育講演会 ・クリエイティブ人材育成事業 ・企業人インタビューDVDの活用 ・インターンシップ ・進路講演会 ・進路学習 ・上級学校キャンパスツアー	進路指導課 各学年	・働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成する必要がある。	【努力指標】（生徒） 自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒が増えている。	自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになったと評価した生徒の割合が A　７５％以上　　７７％ B　６５％以上 C　５５％以上 D　５５％未満	① ② ③ ④	できるようになった。 だいたいできるようになった。 ほとんどできない。 全くできない。	28% 49% 19% 4%	A	【分析】各取組を通じて、生徒は進路について考えることができている。後期は12月に校内研修会を実施し、教員の進路指導スキル向上につなげることができた。 【今後の対応】研修会などを通した教員の進路指導スキル向上の取組を継続する。	生徒対象調査 （7，12月）
○個に応じた学習指導の充実による進路実現	・習熟度別授業 ・放課後補習 ・個別指導	進路指導課 教務課 各学年 各教科	・多様な進路志望の生徒に応じた指導の更なる充実が求められている。 ・大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導の向上が求められている。	【成果指標】（教員） （１・２年生） 対外模試の成績を伸ばした生徒が増えた。（７月と１月模試の結果で判定する）	対外模試の成績を伸ばした生徒の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上　　１年生　５２％ D　５０％未満　　２年生　３２％	【７月と１月ベネッセ総合学力テストの比較（全国偏差値）】 １年生　５２％　評価「C」　（国数英３教科） ２年生　３２％　評価「D」　（国数英３教科）			１年生C ２年生D	【分析】１年生21名中上昇者11名　２年生17名中上昇者６名　授業内容の確実な定着を図る必要がある。 【今後の対応】教科担当者が到達目標を明確に意識し指導する。上位層については個別に課題学習を行う。	対外模試結果
				【満足度指標】（生徒） （３年生） 卒業後の生徒の進路先の満足度で計る。	卒業後の自分の進路決定について満足している生徒の割合が A　８０％以上　　９７％ B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	① ② ③ ④	満足している だいたい満足している 余り満足していない 全く満足していない	75% 22% 3% 0%	A	【分析】ほぼすべての生徒が自分の進路先に満足している。 【今後の対応】今後も、生徒の幅広い進路希望を実現できるよう、個別の面談や指導に取り組む。	生徒対象調査 （7，12月）
○クリエイティブ人材育成事業による生徒支援の充実と進路実現	・ふるさとへの愛着心を涵養し、能登の産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学、講演会、校内研修会の実施	進路指導課 全教員	・就職を希望する生徒の大半は地元を希望するが、進学後に地元就職を希望する生徒は少ない。	【成果指標】（生徒） 企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができたと答えた生徒の割合が増えた。	企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができたと答えた生徒の割合が A　８０％以上　　８５％ B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	① ② ③ ④	できた まあまあできた 余りできなかった できなかった	37% 48% 11% 4%	A	【分析】各取組を通して、能登の産業への理解は深まっている。３年生民間企業内定者11名のうち７名が輪島市内の会社である。 【今後の対応】今後も能登に関連した企業見学・講演会等を実施していく。	生徒対象調査 （7，1月）

学校関係者評価委員会の評価	・門前高校は連携型中高一貫教育であり、中高連携して英語教育に力を入れている結果、英検合格者が増えていることはよい。 ・進路指導については、更に強化していくべきである。
評価結果を踏まえた今後の改善策	（進路指導課） ・中高一貫で中高連携して、英語教育に更に力を入れる。また、ICT機器を活用したOST（Online Speaking Traning）などにも更に力を入れる。 ・進路意識については、教員の進路指導スキル向上を通して、生徒のさらなる進路探究につなげていきたい。進路実現については、教科担当者の到達目標を意識した指導が必要である。

重点目標　３　ワークライフバランスを取りながら、部活動やボランティア活動によって、学校の活性化を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準				判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
○教員の働き方改革の推進	・部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し ・計画的、協働的な校務の推進 ・定時退庁日の設定 ・最終退校時間の設定と実践	全教員	・教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。	【成果指標】（教員） 最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員が増えている。	最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行う教員の割合が Ａ　８５%以上 Ｂ　７５%以上　　８４% Ｃ　６５%以上 Ｄ　６５%未満	① ② ③ ④	行っている 概ね行っている 余り行っていない 全く行っていない	58% 26% 12% 4%	B	【分析】全体の数字は改善されているが、全く行っていないが５%になった。 【今後の対応】効率よく業務をこなせるような工夫をすることと、特定の教員に業務が偏らないようにしていく。	教員対象調査 （7，12月）
○各種行事・諸活動への自主的参加	・各種校内行事 ・学校企画の諸活動 ・学校祭等の生徒会活動	生徒会 総務課	・どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。	【成果指標】（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた。	各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たしたと実感できた生徒の割合が Ａ　８５%以上　　８８% Ｂ　７０%以上 Ｃ　６０%以上 Ｄ　６０%未満	① ② ③ ④	果たせた だいたい果たせた 余り果たせていない 全く果たせていない	51% 37% 10% 2%	A	【分析】中間報告のときより役割を果たしたが１４%向上するなど数値が改善された。 【今後の対応】役割を果たせていないと感じる生徒もいるので、どの生徒でも積極的に参加できるような取り組みを考える。	生徒対象調査 （7，12月）
○部活動を通した人間力の育成	・競技力、表現力向上を目指した日々の取組	生徒会 部顧問	・限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	【成果指標】（生徒） 自主的に部活動に取り組むことで、自分を成長させることができた。	部活動を通して自分が成長したと感じた生徒の割合が Ａ　８０%以上　　９１% Ｂ　７０%以上 Ｃ　６０%以上 Ｄ　６０%未満	① ② ③ ④	できた だいたいできた 余りできていない 全くできていない	64% 27% 5% 4%	A	【分析】日々の活動で、自分の様々な成長を自覚できている生徒が多い。 【今後の対応】全くできていないの数値が増えているので、何らかの役割を与えるなど成長を感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査 （7，12月）
○ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・総持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等	総務課 生徒会 全校生徒	・部活動単位でのボランティア活動には参加しているが、今後自主的に参加する姿勢を涵養していく。	【成果指標】（生徒） 学校行事も含めた各種ボランティア活動に年３回以上参加した。	活動に年３回以上参加した生徒の割合が Ａ　９０%以上 Ｂ　８０%以上 Ｃ　７０%以上 Ｄ　７０%未満　　５１%	① ② ③ ④	３回以上参加した ２回参加した １回参加した 全く参加していない	51% 37% 10% 2%	D	【分析】本来は３回以上参加している生徒でもボランティア活動という意識をもって取り組めていないのではないか。 【今後の対応】個人でも参加できるような環境をつくる。普段の活動に対する意識づけを行う。	生徒対象調査 （7，12月）
	・各種地域行事への参加	総務課 ボランティア部	・過疎化が進み、独居老人が増えている。そのお年寄りたちの参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解した。	活動を通して、他者や地域貢献の意義を理解した生徒の割合が Ａ　９０%以上　　９４% Ｂ　８０%以上 Ｃ　７０%以上 Ｄ　７０%未満	① ② ③ ④	できた だいたいできた 余りできていない 全くできていない	57% 37% 6% 0%	A	【分析】数値は改善されたが、意義を理解していない生徒が数名いる。 【今後の対応】各行事の意義を教員側から伝えるなど、活動への意識を高める。	生徒対象調査 （7，12月）

学校関係者評価委員会の評価	・ソフトボール部が新人大会で優勝し、３月の全国選抜大会に出場した。学校はとても頑張っている。 ・ボランティア活動については、公民館行事の９月の敬老会、１０月の社会体育大会等、高校生のボランティア参加に対して、感謝している。今後も継続して、地域行事に生徒の参加を図って欲しい。
評価結果を踏まえた今後の改善策	（生徒会） ・部活動については、ソフトボール部だけでなく、全ての部が頑張っているので、更なる向上を目指して鍛錬する必要がある。 ・ボランティア活動の参加回数で評価が低いものとなった。これは本当に参加していない場合も考えられるが、清掃活動などをボランティアと思わずに仕事や義務だと感じているためもあると考えられる。 今後は活動を行う前に、その活動の目的や意義などを教えボランティア意識を高めたい。

重点目標　４　安心・安全な学校づくりを推進する。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準				判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
○いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察、生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒指導課 教育相談 教員全員	・昨年度は認知無しだったが、「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。 ・生徒の自己有用感を高め良好な人間関係づくりを進める取組を継続する。	【成果指標】（教員） 研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている。	研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている教員の割合が A　９０％以上　１００％ B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	① ② ③ ④	できる 概ねできる 余りできない 全くできない	47% 53% 0% 0%	A	【分析及び今後の対応】 「あまりできない」「全くできない」教員の数は０になった。「できる」と答えた教員の数も若干増えた。今期は問題の早期発見・対応を適切におこなうことに関する研修および共通理解の場を多く持った。来年度は予防的生徒指導の観点をより多くもった実践につなげたい。	教員対象調査 （7，12月）
○スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒指導課 教育相談 教員全員	・校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」と評価した生徒の割合で判断する。	「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールをしっかり守っている」と評価した生徒の割合が A　９０％以上　９８％ B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	① ② ③ ④	守れた だいたい守れた 余り守っていない 全く守っていない	68% 30% 1% 1%	A	【分析及び今後の対応】 「守れた」と回答した割合も７月と同等であった。学校でできる最低限のルール・マナーとして自ら「守る」という意識を今後も継続して育てていきたい。他校での実践も参考にしていく。	生徒対象調査 （7，12月）
				【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合で判断する。	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合が A　８５％以上　１００％ B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	① ② ③ ④	理解している だいたい理解している 余り理解していない 全く理解していない	69% 31% 0% 0%	A	【分析及び今後の対応】 A評価ではあるが、「理解している」の回答割合が低下している。何が理解できていないのか、何を知りたいのか、など、職員の求めていることを踏まえた研修の機会を今後は設けていきたい。	教員対象調査 （7，12月）
		保護者	・使用時間・内容など、スマートフォン（携帯電話）等の使用のルール作りについて、継続して家庭での協力を求める。	【努力指標】（保護者） 「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」と評価した保護者の割合で判断する。	スマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上　５５％ D　５０％未満	① ②	話し合った 話し合っていない	55% 45%	C	【分析及び今後の対応】 昨年度の反省を踏まえ、今年度は各家庭に向け「使用の仕方を確かめる、ルールを見直す機会」を作るよう呼び掛けた。昨年度よりは高まったが、やはり目標値には達していない。情報発信のしかたなどをさらに工夫し、啓発に努めたい。	保護者アンケート（7月、12月）
○通学時の交通安全	・自転車マナー指導 ・教職員・ＰＴＡによる街頭指導 ・交通安全に関する調査	生徒指導課	・自転車マナーに関する指導を受けた生徒は昨年度いなかったが、保護者・地域の方にも協力を仰ぎながら今後も生徒の規範意識向上に取り組む。	【努力目標】（教員） 生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導を実施する。 （年間３回以上参加する）	生徒の交通安全意識向上に向けて、街頭指導３回以上参加した教員の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上　７３％ D　７０％未満	① ② ③ ④	３回以上実施した ２回実施した １回実施した 実施していない	73% 15% 12% 0%	C	【分析及び今後の対応】 職員の出張及び年休等で参加できなかった等の理由も考えられるので、確実に実施できる提案の在り方、また、生徒の意識向上にきちんとつながる目標の立て方を来年度検討したい。	教員対象調査 （7，12月）

学校関係者評価委員会の評価	・生徒指導については、大きな課題は無いので、今後とも継続して欲しい。
評価結果を踏まえた今後の改善策	（生徒指導） ・今年度も現在まで大きな問題が起きることなく学校生活が送られている。 ・校内での職員間の連携のみならず、家庭や地域との連携を今後も大事にし、未然防止の観点をより高めて安心安全な学校づくりを進めていきたい。 　また、問題が起きてから対応を考えるのではなく、起こりうる問題を想定し体制を整え準備しておくことにも今後は力を注いでいきたい。